

# 真狩村における担い手組織の活性化と学びの場の創出

～真狩ドリームファクターズへの組織活動支援～

対象：真狩ドリームファクターズ 17名 活動年次：令和2～4年度 本所地域第四係

## 活動の背景

### 地域の概要

\*農業センサス

地名	年次	合計数 (人)	年齢別基幹的農業者数(人)		
			15～29	30～59	60歳～
真狩村	2010年	437	33	214	190
	2020年	296	14	136	146
	増減数	-32	-19	-78	-44

地名	年次	合計 戸数 (戸)	経営規模別農家戸数(戸)				
			～ 20ha	20～ 30ha	30～ 50ha	50～ 100ha	100ha ～
真狩村	2010年	156	103	31	16	5	0
	2020年	125	63	34	20	7	1
	増減	-31	-40	3	4	2	1

### 課題

- ・農業人口の減少
- ・担い手の減少
- ・経営面積の増加
- ・農業情勢の変化による経営状況の変化
- ・コロナ禍による学びの場の減少

### 活動のねらい

#### 【プロジェクト活動の実施】

- ・会員の資質向上
- ・組織活動の活性化

#### 【自己課題の設定】

#### 【学習会の開催】

- ・各自の経営の合わせた技術、知識習得
- ・学びの場の創出

## 活動と成果のポイント

### 1 役員とのプロジェクト計画の作成

円滑にプロジェクト活動が遂行できよう役員と事前に計画を協議  
定例会にて、会員全員から承認をもらう

#### 成果1

- ・R2・3年は、さつまいもの試験栽培
- ・R4年は、ながねぎの試験栽培を計画

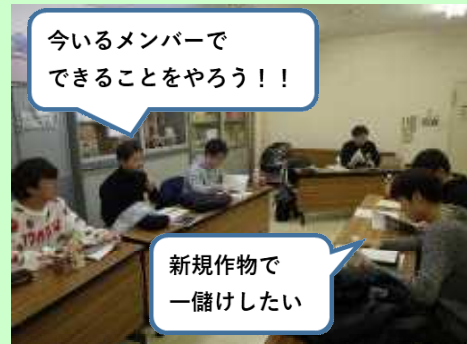


写真1 会員のみみんなで計画の協議

### 2 プロジェクト活動の実施

真狩村役場から  
試験ほ場提供などの支援

#### 成果2

- ・会の活動の活性化
- ・栽培試験方法を会得
  - ・さつまいもは、3戸で導入
  - ・ながねぎは、2戸が導入



写真2

さつまいもの調製作業



写真3  
ながねぎの定植

### 3 プロジェクト活動のまとめと各種報告



写真4 R4年後志アグリフォーラム最優秀賞を受賞



写真5 R3年全道農業者会議で優秀賞を受賞、真狩村村長に報告

プロジェクト活動のまとめ・発表の実施  
真狩村役場への報告

#### 成果3

- ・PDCAサイクルを理解
- ・他地域との交流
- ・関係機関からの理解
- ・会員の自信がつく

### 4 プロジェクト活動意外の活動



写真6 家族も参加しての水稲作り



写真7 秋まき小麦の越冬前茎数調査

自己課題を設定し、  
各自の取り組みを開始

#### 成果4

自ら課題解決を図ろうとする意識が醸成された。

### 5 各種学習会の開催



写真8 土壌に関する学習会



写真7 主査(担い手)による経営学習会

関係機関などと連携し  
学習会を開催

#### 成果5

学びの場として成熟しつつある。

## 今後の対応

#### プロジェクト活動実施への支援

- ・ながねぎの早出し作型の検討
- ・調査・作業・プロジェクト発表への助言

#### 自己課題の設置と対応 学習会の開催

- ・課題解決に向けた支援
- ・冬季に学習会を開催

# 地域で育てる新規就農者育成に向けた支援

～後志管内指導農業士・農業士会と連携した担い手育成～

対象：新規就農者、研修生 活動期間：令和4年度 広域（担い手）

## 活動の背景

- 管内の新規就農者は30～40名前後で推移。
- うち過半数が新規参入者。

新規就農者のうち  
新規参入者は67%と全道一

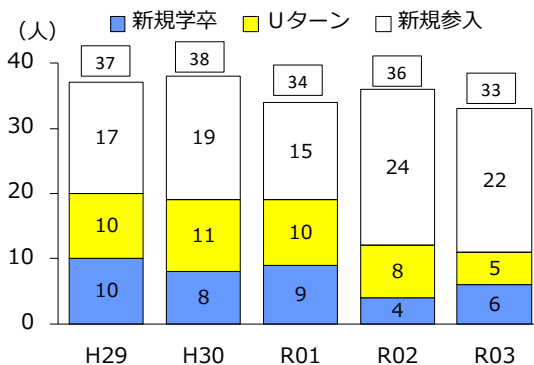


図1 管内の新規就農者の推移 □内は合計

新規就農者・研修生

- 早期に基本技術を習得
- 経営管理能力の早期習得

仲間づくり

- 仲間との交流
- 交流会を開催

地域農業を担う人材の育成

## 活動と成果のポイント

### ●活動体制

後志管内指導農業士・農業士会  
(指導農業士47名、農業士95名)

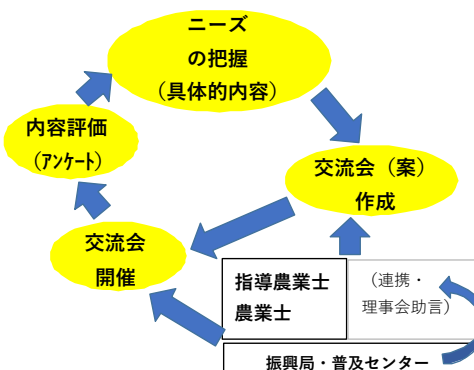
連携

事務局：振興局・普及センター

### ●活動経過

新規就農者・研修生等交流会を通して指導農業士・農業士双方との交流促進

交流会の開催で、指導農業士・農業士が活躍できる体制づくり



- 新規就農者・研修生との交流を重視した運営
- 新規就農者・研修生の現状把握と助言

- 新規就農者・研修生に対するサポート体制
- 案内は各町村の担当者を通じ周知
- 参加者は継続して参加あり
- 関係機関の連携（役場、局、普及センター）

## ●交流会の具体的内容（令和4年度）

区分	内容
先輩就農者からのアドバイス	先輩農業者：赤井川村 永沼隆治氏 「先輩からのアドバイス」
勉強会	①「消費税インボイス制度とは何か」講師：普及指導員 ②「施設園芸の環境制御」講師：普及指導員
グループ相談会 ※座長は指導農業士	①経営に関するグループ ②就農に関するグループ ③農作業・栽培に関するグループ 指導農業士・農業士(7名)が加わり相談対応する。



先輩新規就農者からのアドバイス

・新規参入して20年、大変苦労したが自分は農業が好きです！



グループ相談会 A（経営）

・税務申告に掛かる費用は？  
・インボイス制度とは？  
・出荷先、販売先を教えてください！  
・雇用はどうしているの？



グループ相談会 B（就農）

・就農支援資金について教えて  
・栽培管理が不安  
・福島原発事故をキッカケに安全、安心な農産物を作りたいです！



グループ相談会 C（農作業・栽培）

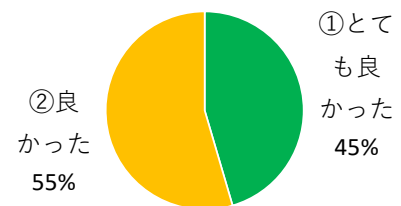
・土づくりを頑張っているが結果が表れない？  
・雑草対策が大変でどうしたらよいですか？  
・害虫被害の対策について教えてください！  
・栽培技術を早く身につける方法を教えてください！

各グループ（3～4名）に指導農業士・農業士、普及指導員でアドバイス!!

【研修生の声】アンケート調査から

- ・経営に関して不安に思っていることについて意見をいただけて良かった。
- ・新規就農に関する意見交換ができた。
- ・先輩の話を聞いて良かった。
- ・経営の話を色々と聞いてとても参考になりました。

研修生の満足度100%



## 活動の成果

- ・令和4年度は研修生13名に対し、指導農業士5名、農業士2名で丁寧に対応。
- ・経験豊富な指導農業士・農業士のアドバイスで速やかに実践へ繋がった。

## 今後の対応

- ・新規就農者・研修生等交流会の開催に向け継続的に支援する。
- ・指導農業士・農業士と研修会参加者同士の交流促進する。
- ・研修会参加者に対するフォローアップする。



# 後志有機農業ネットワーク活動支援

～ネットワーク活動による有機農業の取り組み拡大支援～

対象：後志有機農業ネットワーク会員、有機志向農業者

活動期間：令和4年度 広域（情報・有機・クリーン）

## 活動の背景

### 管内の有機農業の現状

- ・管内の有機JAS認証件数は横ばいから微減
- ・「後志有機農業ネットワーク」は活動休止状態

有機農業者相互の  
情報共有が必要！

「みどい戦略」  
「SDGs」

「後志有機農業ネットワーク」  
活動再開・活性化

有機農業者の育成  
有機志向就農者の定着

有機農業の拡大

## 活動と成果のポイント

### ○後志有機農業ネットワーク活動再開

#### ① 後志有機農業ネットワーク会員巡回・アンケート調査

日時：令和4年7月19、20、27、28日、9月7日

場所：管内全域

対象者：後志有機ネットワーク会員  
(対面11名、書面2名)

活動再開に賛成！

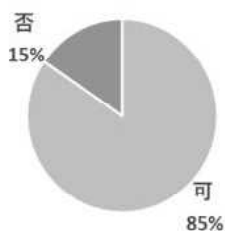


会員巡回

### ○アンケートの内容

- ・活動に参加したいですか？
- ・どのような活動を希望しますか？
- ・活動の時期はいつが良いですか？  
など

#### Q. 活動の可否について



#### Q. 希望する活動の内容について



アンケート調査の結果

## 会員・振興局と協議、会員外の有機農業者も含め4年ぶりに研修会を開催

- ② 後志有機農業ネットワーク定例会(研修会)  
日 時：令和5年3月3日(金)  
場 所：後志農業改良普及センター会議室  
出席者：後志有機ネットワーク会員2名、  
新規入会希望者2名

### ○開催内容

- ・講演「みどりの食料システム戦略」  
について(北海道農政事務所)
- ・今後の活動について意見交換  
など

## 参加者の声



有機志向新規就農希望者の支援が必要

マーケティングを  
学びたい!



会員の交流をかねて  
ほ場見学をしたい

販売会に参加したい



- 成果1 ネットワーク活動の再開により会員間の情報交換が盛んになった  
成果2 新規会員の入会で地域の有機農業者のつながりがひろがった

## 今後の対応

- 既存会員・新規会員が共通で取り組める課題に取り組みたいとの声あり  
→活動活性化のため新規会員を募り、会員の要望に沿った活動の支援を行う  
・・・販売活動研修会の開催、政策研修会の開催などを支援する

# 販路の開拓をめざす農業者を育成！

～関係機関の理解と協力で販売活動レベルアップ講座を開講～

対 象：高付加価値化志向農業者等 活動年次：令和4年度 広域（高付加価値化）

連携機関：後志総合振興局、市町村、農協、直売所

## 活動の背景

令和3年度に実施した「加工・販売レベルアップ研修会」の受講生より、販売に特化した研修継続の要望が寄せられた。販売力を高めるためには、マーケティングを学び、実践できる人材育成の場を創出する必要がある。

研修会受講生から、販売、デザイン、PRなどの方法への要望が寄せられる。



方法論の前に、商品や農場の価値を見つめ直す必要がある！

- なぜその活動を行うのか→基本理念が不明確…
- 商品・農場の価値は何か？  
→商品PR情報が未整理…

販売活動レベルアップ講座を開催

2年間でマーケティングを段階的に学び、基本理念や商品PR情報を明確化し、販路を開拓できる人材を育成する。

## 活動と成果のポイント

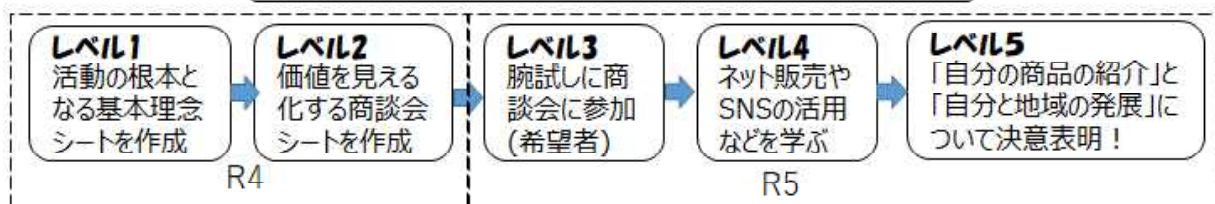
### Point 1 販売活動レベルアップ講座を企画

#### 〈講座の開催目的〉

商品をお客様に売り込むのではなく、お客様が買いたいと思ひ、ファンが増える活動（マーケティング）を実践できる人材の育成を目指す。

#### 〈講座の概要〉

テーマ：「マーケティングを学んで販路を開拓」



### Point 2 各所からの理解と協力で受講生が16名となる

管内指導農業士・  
農業士

- 講座の講師を快諾（5名）
- サポーターとして講座  
参画（2名）

市町村・JA

- 講座の開催に賛同
- 農業者へ講座を周知
- 会場の提供

島牧村から小樽市まで、管内全体から受講生が集まり驚きました！

受講生同士が触発しあって、人脈を拡大することを期待します！



### Point 3

## 講座を開催し基本理念と商品のPR情報の整理を支援

### プレ講座：商談会の見学



集客するブースは、写真や試食など目を引く演出がある！



各ブースの特徴を観察

ホテルのシェフとの出会い

### 第1回講座：開講式・講演



農家らしさを強みに、信念を持って活動することが重要です。



講師：ニセコ町 高橋氏

### 第2回講座：基調講演・事例発表・演習



6次産業化は、基本理念を明確にした上で、所得の向上と地域活性化の視点が重要です。

基調講演講師



講師：京極町高木氏



演習：基本理念シートの作成

### 第3回講座：事例発表・演習



物事を始めるには、今が一番若い時です。また、人とのご縁を大事にすることで活動は拡大します。

講師：余市町宮野氏

商品の良さを見つめ直す良い機会。自分らしく、表現したい。



演習：商品のPR情報整理

### アフターフォロー



基本理念と商品のPR情報の整理を支援

#### 成果1

受講生全員が基本理念と商品のPR情報を検討！

#### 成果2

受講生同士、受講生と講師など、人脈が拡大！

#### 成果3

受講生やサポーター、関係機関等の口コミで管内の農業者から受講希望の声  
→ 学ぶ意欲が地域に波及！

## 今後の対応

販売活動レベルアップ講座の2年目を開講し、以下の支援を行います。

★商品のPR情報を明確化した上で商談会へ出展

★「原価計算」「SNS活用」について学習

★「将来ビジョン」の検討

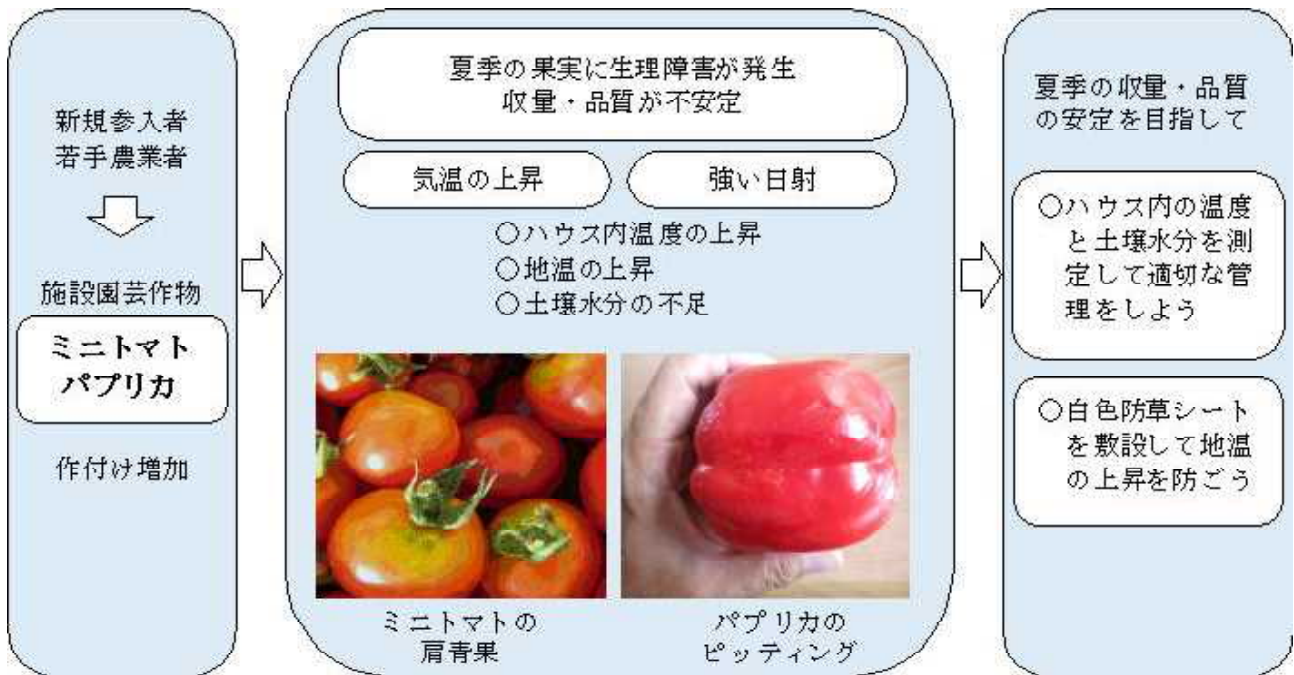


# ハウス環境の見える化で収量・品質の向上を

～ミニトマト・パプリカの生理障害対策の検討～

対象：赤井川村 中央 町内 曲川地区 15戸 活動期間：令和3～7年度 支所地域係

## 活動の背景



## 活動と成果のポイント

### 成果1



### ハウス環境の見える化による適正管理

ハウス環境測定  
ミニトマトの生育調査



写真1 土壌水分を測定、生育状況の確認

ハウス環境の「見える化」

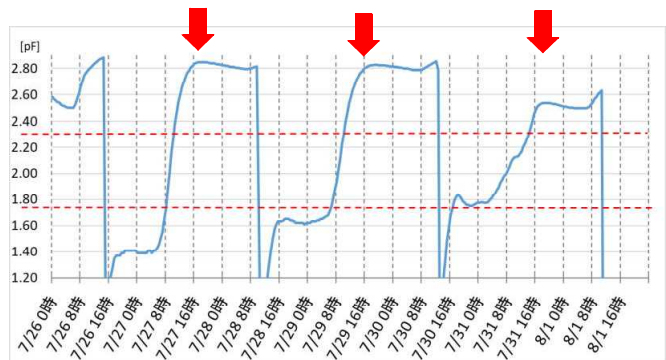


図1 土壌水分の推移 (矢印が乾燥傾向)

農業者とデータを用いた栽培管理の検討

篤農家と新規就農者の栽培管理の違いを比較し、提示することで今後の栽培管理の検討につながった。  
2戸の障害果発生状況はいずれも少なかった。

灌水のタイミングがわかりやすかった。  
より良い管理ができたと思う。



調査は農業者

## 成果2



### シート敷設による地温上昇抑制を確認

府県の高温対策事例を紹介  
(地温上昇抑制、少量多回数かん水)

防草シート、白黒マルチ敷設の展示ほを設置  
農業者と効果確認



写真2 白色防草シートの展示ほ

白色防草シートや白黒マルチによって、地温の上昇を抑制することがわかった。

展示ほ農業者



障害果への影響は判然としなかったが、  
敷設によって着色も早まった気がする。

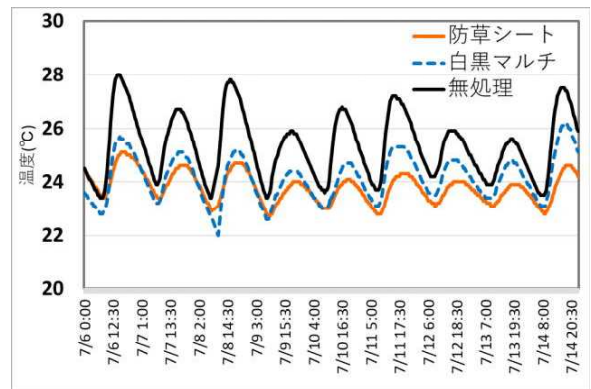


図2 地温上昇の比較

## 地域の高温対策意識の醸成

村全体へ展示ほについて報告したことで、農業者の  
意識向上を図ることができた。

村の農業者



敷設による生育への影響は？

## 今後の対応

地域では、環境モニタリングへの関心が高まっている。そのため、データを活用した栽培環境の適正化による生理障害の軽減を支援する。

# みんな違って みんないい

～新規参入者の就農支援～

対象：余市町ミニトマト新規参入者4戸 活動期間：令和3～4年度 支所地域係

## 活動の背景

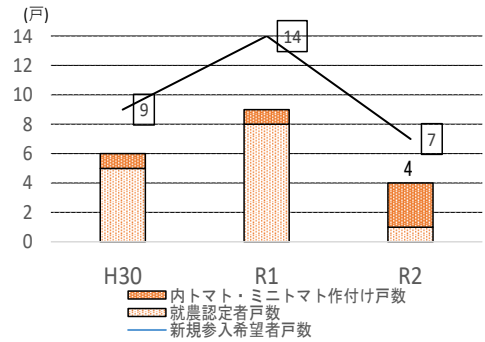
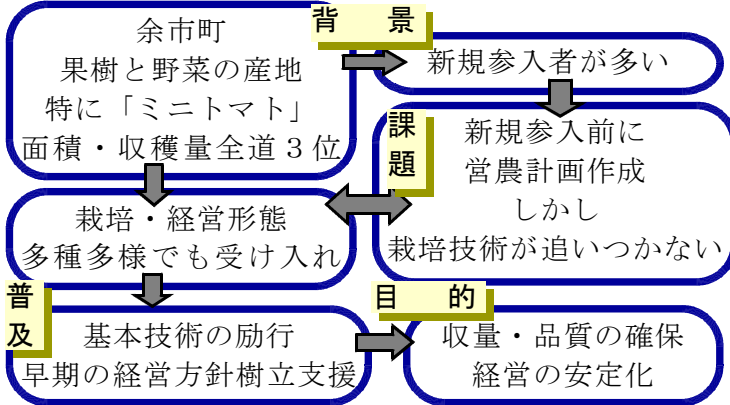


図1 新規就農者の推移

## 活動と成果のポイント

### 成果1 栽培技術の励行で基本技術の習得ができた

対象者	R3→R4の支援内容(目標判定結果：●未達→○達成)			R3に目標が達成しなかった理由	R4目標達成のため農業者が実践した内容	R4D氏に支援	
	適期定植	適切な温度管理	適期防除			適切な雇用労働	労働力軽減
A	○→○	○→○	○→○			—	—
B	○→○	○→○	○→○			—	—
C	●→○	○→○	○→○	・ハウス建設の遅れで、定植時期が遅くなった	・適期定植 ・品種の見直し	—	—
D	●→○	●→○	●→○	・予定していた、大玉トマトの収穫ができなかった ・ピーマンの選果作業での労働負担が大きかった	・ミニトマトの作付け ・ミニトマト選果機の導入 ・ピーマンハウスの減棟	○	○

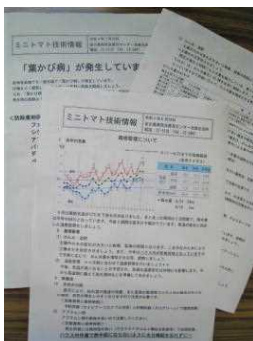


写真1 配布した技術資料



写真2 巡回で状況確認

病害虫が発生した!!  
病害虫診断・防除農薬選定による迅速な防除対応  
↓  
発生被害は少なかった

技術資料の提供…気象経過・年間の栽培管理・病害虫発生情報など

↓  
適期作業と適切な温度管理ができた

月1回の巡回

必要に応じた柔軟な対応



## 成果2 目標とした収量・品質の確保ができた

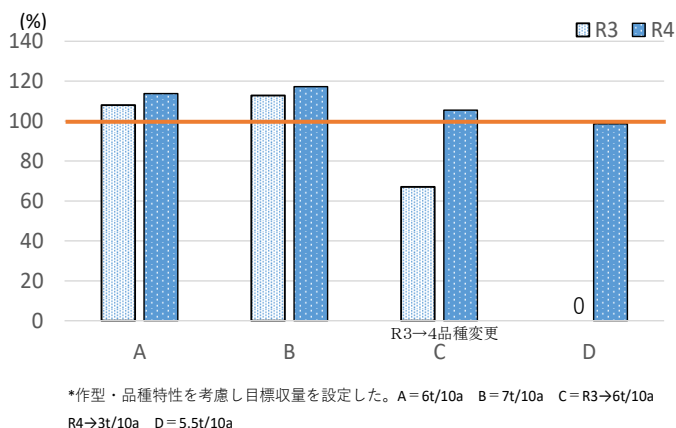


図2 収量の推移



写真3 現地への直接指導

樹勢が強いので対策はないか？  
 肥料調整・現在のかん水量の確認・  
 樹勢コントロール方法等の実践  
 ↓  
 樹勢が強い原因を一緒に考えよう!!  
 ↓  
 その後の生育確認と調整で改善した

## 成果3 個々の意向に合わせた早期の経営確立ができた

対象者	経営の特徴 (R3)	経営の特徴 (R4)	販売方法	経営方針
A	ハウス夏秋どり作型ミニトマトの前作につるなしインゲン導入試作	ハウス夏秋どり作型ミニトマトの前作につるなしインゲンとササゲ導入 ミニトマト新品種導入	J A出荷・共選	他品目導入による連作回避 他品目や長期作型導入による作期延長 所得の安定
B	ミニトマト半促成長期どり作型	ミニトマト半促成長期どり作型	J A出荷・共選	規模拡大 収量増加
C	ミニトマト (品種: アイコ) 栽培	ミニトマト (品種: アルル) 栽培	独自販売	食味重視の特性を生かした有利販売 値決め販売による所得確保
D	大玉トマトの試作	ミニトマト (品種: サンチェリーピュア) 栽培	J A出荷・個選	良食味品種の栽培 規格内品質の向上



図3 担い手育成協議会構成図



写真4 今後の意向確認

巡回・質問事項の対応・技術情報提供・  
 地域の話題提供・面談による計画の進捗  
 状況確認等の情報交換  
 ↓  
 経営方針が固まってきた!!  
 ↓  
 早期の経営方針樹立につながった

面談対応で関係機関と情報共有

### 今後の対応

A氏、B氏、D氏はJA生産部会員として、C氏は個別にそれぞれ、今後も継続し対応する。

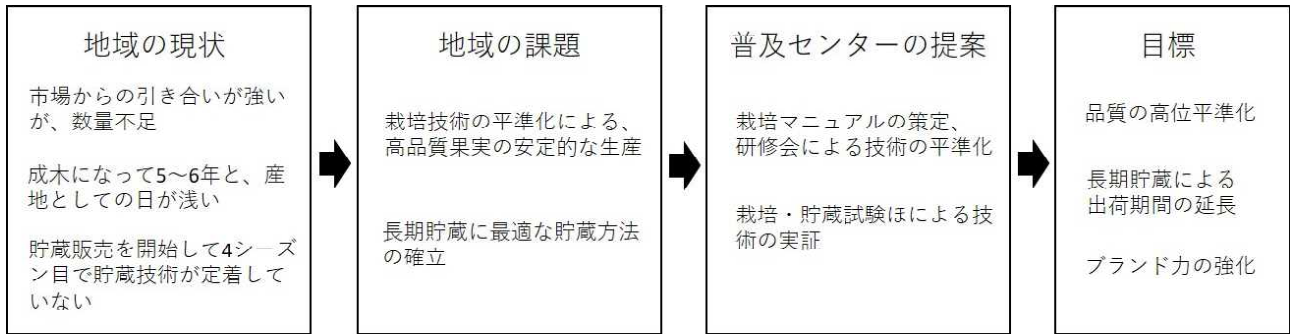
# La・La・Shine®規格の出荷量拡大に向けて

～シャインマスカット最北の産地形成に向けて～

対象：仁木町ハウスぶどう生産組合シャインマスカット部会19戸

活動期間：令和3～4年度 支所地域係

## 活動の背景



### 活動のねらい

- ・高品質果実の安定生産
- ・長期貯蔵に向けた貯蔵方法の検討

## 活動と成果のポイント

### 1 PDCAサイクルを回した、高品質果実の安定生産

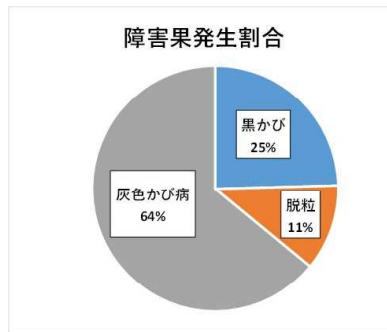


**成果1** ・PDCAサイクルが好循環することにより、生産技術が生産部会内に普及  
 ・シャインマスカットの出荷量は5年間で10倍に増加

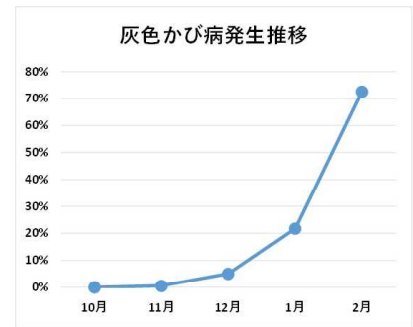
## 2 貯蔵時のロス削減に向けて



生産部会役員と協議・検討し  
様々な貯蔵試験を実施



貯蔵時の障害果は灰色  
かび病が6~7割を占める



12月から発生量が増え始め、1~2月に急増する



次亜塩素酸処理による  
灰色かび病対策



- ・12月頃から灰色かび病が増え始めるのがわかった
- ・袋掛け前の防除をもっとしっかりやろうと思う

**成果 2** ・生産部会役員と行った貯蔵試験により、貯蔵時の問題となる灰色かび病の発生時期が判明  
・袋掛け前防除の徹底、貯蔵前の次亜塩素酸処理が実施されるようになった

## 3 栽培技術向上による、La・La・Shine®の出荷量拡大



**成果 3** ・栽培技術が部会内に浸透し、La・La・Shine®の出荷量は年々増加  
R4年度の出荷量はブランドとして販売が開始されたR2年度の2倍!!

## 今後の対応

- ・栽培技術は部会内に浸透し、安定生産につながっているため、今後は若木栽培者の技術向上や新規作付け者へのフォローを重視した活動を行う。
- ・貯蔵時のロスの要因は灰色かび病が7~8割を占めるため、更なる灰色かび病対策の検討をする。



# 病害虫の発生を抑えてりんごの高品質生産

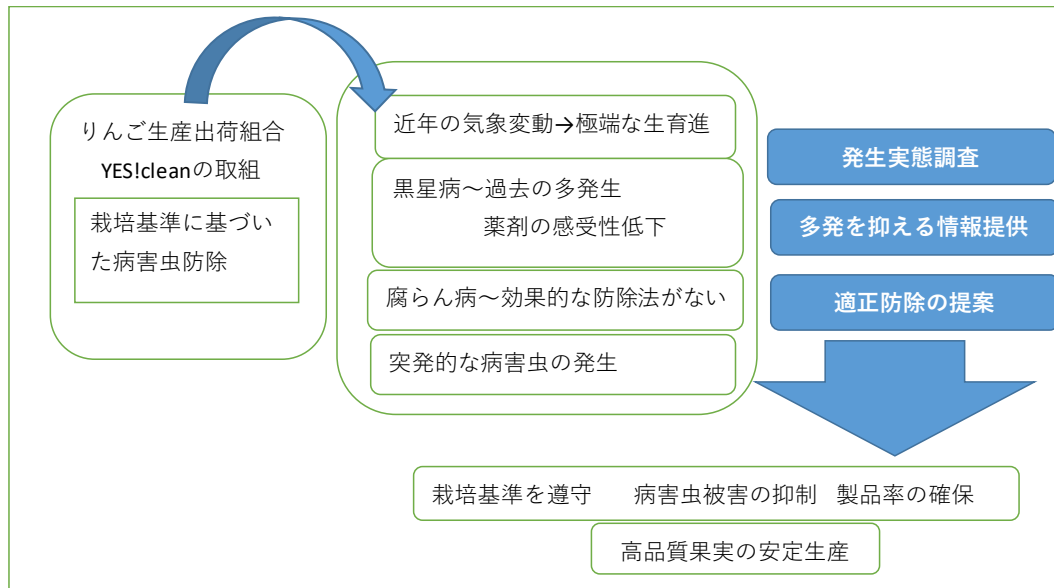
～りんごの主要病害虫防除に向けて～

対象：余市町りんご生産出荷組合57戸 活動期間：令和3～4年度 支所地域係

## 活動の背景

余市町のりんご生産出荷組合では、YES! cleanに取り組む中で、体系に基づいた防除が実施されている。しかし、近年は気象の変動が大きく、生育に合わせた防除が重要になっている。

特に、過去に多発した「黒星病」については、6月までの発生を抑える防除徹底と、地域で長く課題となっている「腐らん病」については発生実態調査を行い防除について検討した。



## 活動と成果のポイント

### [成果1 黒星病は3カ年多発生を抑制]

平成29、30年の黒星病多発は地域のりんご栽培における大きな問題となった。

多発の要因の1つが基幹防除薬剤の耐性菌の出現であったため、それまでの防除体系を見直し、以降3年間は発生を抑えている。

6月までの発生を抑える事が重要であることを「果樹情報」により周知した。

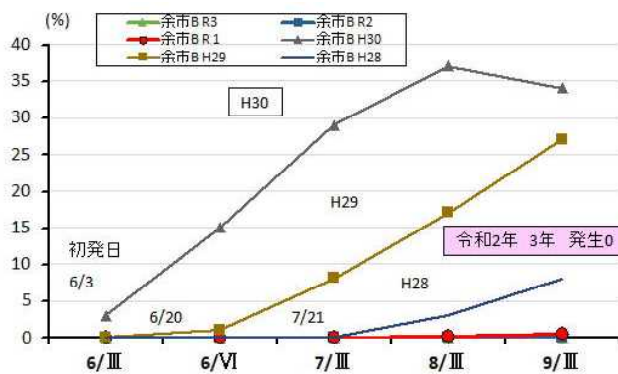


図 年次別発病葉の発生



図 年次別黒星病被害果の発生

## [成果2 腐らん病の発生状況を把握できた ～発生実態の聞き取り～]

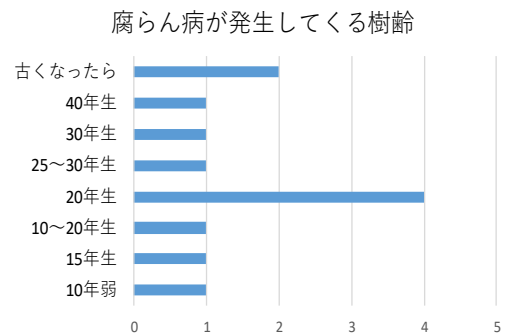
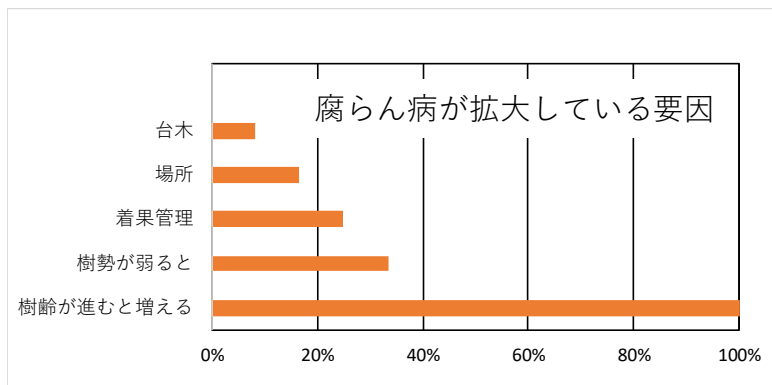
○約5割のりんご栽培農業者が  
自分の園地で問題となっている病害虫  
「腐らん病」と回答

発生部位	発生が多い	5年前に比較して増えている
枝	9%	9%
果台	9%	18%
胴	36%	45%

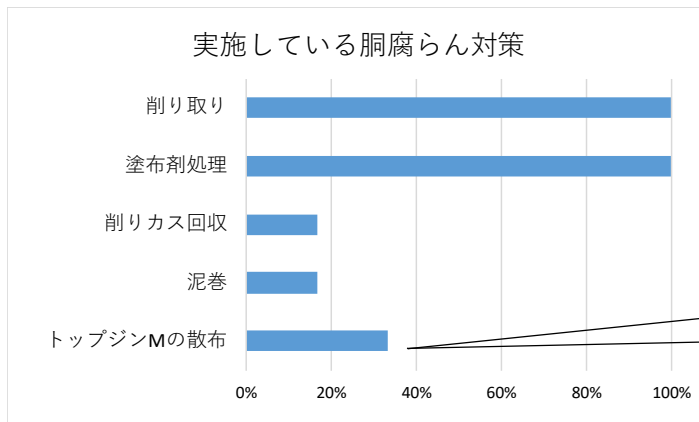
多いのは、胴腐らん

1割～2割の樹で発生

○「樹齢が進むと」発生が増える



○削り取りと塗布剤処理はしっかり実施されていた



薬剤の効果は「分からない」  
又は「無かった」

～聞き取り結果から～

耕種的防除、樹勢の維持が肝心

胴腐らんが、地域の1割程度の樹に常発している。

樹齢20年を超えると、発生が増えてくる。→ 発生が少ない人は、計画的に更新。

削りとり、塗布剤薬剤などは行われているが、削りカス除去の実施は少ない。

夏期のトップジンM散布は、効果が分からない。→ 耕種的防除が基本

### 今後の対応

調査結果等を参考に情報提供を行い、現地研修会、配付資料による適期防除、耕種的防除の励行の意識醸成に努める。